

市民文化大学雑感

良質な文化に浴する機会が少ない北九州市で、28年間続いている北九州市民文化大学をご存知だろうか。友人に誘われて入校して6年になる。私は家内のアッシー役として同伴し、出席率は7割程度である。大学といっても入学試験もレポート提出もなく、まして成績発表もない。特典としては、年一回の修学旅行(自費)や5年、10年……といった勤続在学表彰制度がある。少々の年会費を支払っている限り退学勧告もなく、いつまでも在学できる。しかも居眠り自由、と至って気楽な大学なのだ。

開講日、「今日は、ご苦労さまです」とボランティアの方々には労いの言葉を掛けながら入場すると、そこには知識欲旺盛な女性パワーに満ち溢れた老人大集会在待っている。講座は年8回(昨年度までは10回)のペースで、厳選された各界の有名講師がシニア相手に面白おかしく、懇切丁寧に講話をしてくれる。

先月はバラエティ番組でもお馴染みの脳科学者茂木健一郎、今月は冒険小説作家椎名誠、来月は女優市原悦子(家政婦は見た)、といった具合に、そうそうたる講師が揃えられている。

先月の茂木健一郎の講演は<走ることで脳を変える>であった。私の本棚(本館4階ロビー)にも彼の著書『走り方で脳が変わる』を展示していた。先般、行橋から大分間の100kmウォークが雨中に開催され、当院では患者さん1名と職員6名が参加されたと伺っている。完走者は患者さんと職員3名であったが(3名は60km地点でリタイア、それでもご立派)、一番早かったのがご高齢の患者さんという“落ち”がついている。それほどお元気でユーモア溢れた人をベッドに括り付けておくとは……。それはそうと、歩くこと走ることが脳を鍛え、脳細胞をより活性化することは確かなようである。以前サイボウズにおいて創造力の4B(mind-wandering)について述べたが、もうひとつ“何も考えずにひたすら歩く”を付け加えたい。

椎名誠の講演内容は<幸福と死について>であったが、半分以上居眠りしていたこともあり、取り立てて感想はない。それでは悪いと思い、会場のロビー販売で『寝ころび読書の旅に出た』と『孫物語』を彼の名刺代わりに買って来た。

『孫物語』はジジバカ物語で、私にとっては二昔前に経験した出来事であったが、それなりに面白かった。旅のガイドブック仕様の『寝ころび読書……』は、彼の旅への思い入れや探検談と数々の世界的有名冒険物語が満載で、<夢をいかに実現していくか>、<読書がいかに心を豊かに楽しくしてくれるか>といったことが、一冊に凝縮されていた。早速、彼ご推奨の冒険小説11冊とDVDを購入し、ただいま気が遠くなるようなアラン・ムーアヘッド作『白ナイル』と『恐るべき空白』に取り組んでいる。私の本棚には『コン・ティキ』のDVDを展示中で、次回講師市原悦子主演『蕨野行』のDVDも展示予定である。

秋の夜長は読書がいちばん、私の心を豊かにしてくれる。

明日もいい日でありますように

平成28年11月4日
はまゆう会会長 市丸 喜一郎